

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 3 月 29 日

仕事の内容	東大和市老人性白内障眼鏡等購入費助成事業			
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係 課長名 伊野宮 崇

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	2 - 2 -	-
【施策名】 高齢者保健福祉の推進	総合計画書 (ページ)	51	

予算名	3	民生費	項	1	社会福祉費	目	3	老人福祉費	事業	4	高齢者日常生活支援事業
-----	---	-----	---	---	-------	---	---	-------	----	---	-------------

この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 下記の条件を満たすもの ①65歳以上で手術を受けた者 ②眼鏡等の購入時に市内に居住し、住民基本台帳等に記録されている者 ③医療保険加入者 ④申請した年度の市民税が非課税である者(特殊眼鏡の場合は所得の制限内の者)	→	① ①の対象数や量を、あらかずもの(対象指標) 市内65歳以上の高齢者数(平成30年4月1日現在)
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 対象者の経済的負担を軽減する。	→	② ②の状態になった数・量をあらかずもの(成果指標) 支給件数
	③ そのために何をしましたか。 身体上の理由により、老人性白内障治療のための水晶体摘出手術において、眼内レンズを挿入することが出来ない高齢者に対し、手術後に使用する特殊眼鏡及びコンタクトレンズの購入に要した費用の一部について、4万円(特殊眼鏡)または2万5千円(コンタクトレンズ)を限度として助成する。 手順については、対象者からの申請受付後、内容を審査し、決定通知書を送付してから、助成金を支払う。	→	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) 支給件数

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	21,957	22,350	22,711	
	成果指標	②の数値	件	5	0	0	
	目 標	②の目標値					
		目標値設定の考え方	対象者が限られるため、目標を設定するにはなじまない。				
活動指標	③の数値	件	5	0	0		

3 経費	事業費(実績)	円	93,324	0	0	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外)年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)	
	財源	一般財源	円	93,324	0		0
		特定財源	円	0	0		0
		(うち受益者負担)	円	0	0		0
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	1人2H	0		0
		所要人数(再任用)	人				
職員人件費(再任用以外)	円	8,600	0	0			
職員人件費(再任用)	円						
事業費+人件費	円	101,924	0	0			

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 昭和57年、老人医療証で支給されない特殊眼鏡代を助成する要綱が制定された。高齢者の経済的負担の軽減を図り、高齢者福祉を増進させることが目的。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 平成4年に補助眼鏡(眼内レンズを挿入した者が補助として使用する眼鏡)が必要になった場合は眼鏡購入費の一部を助成することになった。平成5年から東京都で眼内レンズ挿入手術を受けられない者に対する特殊眼鏡購入費の助成を開始。平成20年度から補助金額を減額し、対象者を市民税非課税者に限定した。 平成27年度で補助眼鏡の購入費に対する助成は廃止になったため、平成28年度は経過措置の方のみ支給した。

仕 事 の 内 容	東大和市老人性白内障眼鏡等購入費助成事業				
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係	課長名 伊野宮 崇

5 市民等 の 意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について				
	特になし				
6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）				
	取組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）		
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点				
7 課 題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題(2)」の内容				
	特になし				
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。				
	特になし				
8 今 後 の 方 向 性	(3)(2)を踏まえた今後の課題				
	(1)仕事の方向性（「7 課題(3)」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など）				
	現状維持が妥当				
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等				
	特になし				
成 果	(3)改革・改善案による期待成果				
	上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。				
成 果	成果を縮小していく。		経 費	仕事の経費は削減する。	